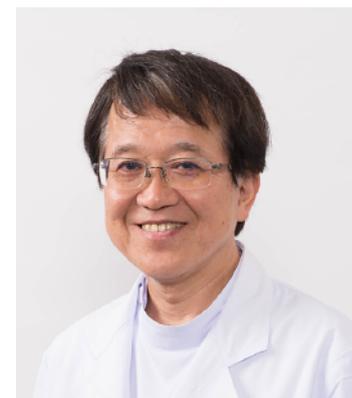


## ✚ コロナウイルス感染拡大第2波に備えて

### 新規感染者数は一旦減少傾向へ

今年2月中旬から流行し始めた「新型コロナウイルス感染症」の日本の第1波は、何とか5月末には一旦収まっていく気配です。（もちろん北海道、福岡など一部地域ではまだまだ安心できない状況ですが・・・）土日の公園を歩いていると、マスクもせずサッカーしたり、バーベキューなどを楽しんでいる若者たちをたくさん見かけるようになりました。さすがに、街並みの活気はまだまだ戻らず、電車の中もマスクの人が多いですが、以前の緊張感はかなり薄らいでいる印象です。一方、スペイン風邪以来の100年ぶりの世界的に大きなパンデミックは、地球レベルではまだまだ収まる気配もなく、このままでは新型コロナウイルスの感染者は全世界で1,000万人を軽く超え、死者も100万人近くに達するのでは、という専門家の意見も出ています。（日本では分かっている範囲で感染者1.7万人、死者900名程度）



千船病院 感染管理室 室長  
総合内科 部長  
藤田 芳正



「日本での新規感染者数も減ってきたし、少しぐらい大丈夫！」という気持ちになっていませんか？ステイホームからの反動ですぐにでも外出したいという方もいらっしゃると思いますが、まだまだ油断は禁物です。

第2波は本当にあるの？過去のデータから見る傾向とは

## +

**油断は厳禁！今こそ参考にすべき 100 年前のパンデミック（世界的大流行）**

100 年前のスペイン風邪は（実はアメリカ軍から始まったというのが有力）1918 年から 1921 年までに 3 回の流行を繰り返し、当時の世界人口の 25 ～ 30% に当たる 5 億人が感染、死者の数は少なくとも 4,000 万～5,000 万人以上とも言われています（日本では当時 2,400 万人が感染し 40 万人弱が死亡、今回の新型コロナウイルスの 400 倍以上の被害）。新型コロナウイルスとは違い、小児や若年者の死者が多かったのが特徴（死者の 99% が 65 歳以下）です。ちょうど第 1 次世界大戦後半の頃で、栄養状態も悪く死者の多くがウイルスそのものより細菌による 2 次感染で命を落とし、アメリカではこの時の第 2 波が第 1 波の死者の 10 倍になったと言われています。

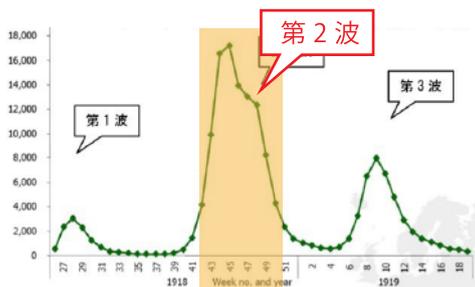
## +

**息を潜めるウイルス 第 2 波、第 3 波を大きな波にさせない**

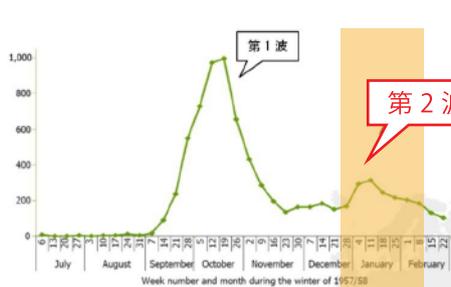
スペイン風邪の教訓からあるいは過去の 3 回の世界的流行（下図）からも分かるように、第 1 波が過ぎても第 2 波は決して侮れません。第 2 波については、変異を繰り返す可能性も高くいつ頃という予想は困難ですが、今年の秋頃？と予測している学者もいます。世界経済が復興しかけて世界中で人の往来が戻りかけても、（ワクチンや薬の開発が間に合わなければ）現段階では世界の国の大半はウイルスに免疫ができていないことは抗体検査でわかっています。そのうちマスクや手洗いも十分行わず 3 密を繰り返し飛行機や船で旅行を楽しんでいると、くすぶっている変異したコロナウイルスがいつ息を吹き返すか分かりません。千船病院でも職員や患者の皆さんがソーシャルディスタンス（Social distance: 社会的距離の確保、人的接触距離の確保）を守り、しっかり手指消毒をしていただいたおかげで、副産物のように MRSA などの院内感染がかなり減少しました。医学はこの 100 年で大きく進歩し、地球も移動手段の発達で狭くなりましたが、まだまだ未知のウイルス、感染症は山のようにあり、治療手段も限られています。年中マスクというのはさすがに遠慮したいのが本音ですが、咳エチケットや手洗い・手指消毒、適度なソーシャルディスタンス、ワクチン接種は、是非継続してゆきたいものです。

### 過去の世界的感染流行から見る第 2 波の傾向

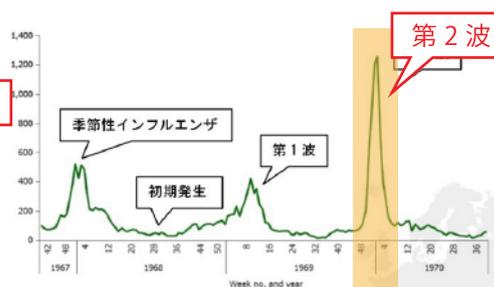
東京海上日動リスクコンサルティング（株）  
公表資料より抜粋



【スペインインフルエンザにおける死者の推移】



【アジアインフルエンザにおける死者の推移】



【香港インフルエンザにおける医療機関受診者の推移】

### 感染状況

NHK 特設サイト 新型コロナウイルス  
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/>



読売新聞オンライン「新型コロナウイルス情報」  
<https://www.yomiuri.co.jp/topics/covid19/>

